

# 日本プライマリ・ケア 連合学会誌

An Official Journal of the Japan Primary Care Association

## Editorial

- ・ 地域を支える医療と多職種協同

## 原著（研究）

- ・ 二次医療圏における医師数の増減と標準化死亡比との関連
- ・ 回復期リハビリテーション病棟で展開される家族の物語  
—重症脳卒中患者の家族へのインタビューを通して—
- ・ 施設内高齢者の精神の状態と対話・交流を行うボランティアの利用意向との関係
- ・ 乳幼児の定期予防接種完了率と未完了のリスク要因

## 原著（活動報告）

- ・ 愛媛県自殺対策モデル事業「久万高原町の取り組み」  
—ネットワーク構築に関して—

# 34-3

第34巻 第3号

2011年 9月

日本プライマリ・ケア連合学会  
The Japan Primary Care Association

## 災害時の口腔ケアの必要性 —口腔ケアは生活とコミュニケーションの獲得—

鈴木 俊夫

### はじめに

東日本大震災の発生が起き、想像を絶する被害と被災者がでた。その以前にも、阪神淡路大震災、新潟中越地震など、立て続けに大きな地震と津波が発生し、その都度防災体制が整備されつつあるがとても追いつかない。また、被災する地域や範囲、医療施設や医療関係者の被災、災害支援体制が思いもかけないような事態となり、しかも、今度は原発の壊滅的な破壊とそれに伴う広範囲にわたる放射線の暴露とその影響など、次々と事態がひろがりつつある。

そこで、今回、生活に根差している口腔ケア、震災関連死とも密接に関係する口腔ケアについて、数名の歯科医師で連載寄稿しその現状を述べてみたい。

折しも、東京（安田講堂）で開催した震災時における口腔ケアのシンポジウムの最中に地震が発生し驚いた経験がある。

### 口腔ケアとは

日本口腔ケア学会では、1994年には、「口腔の疾病予防、健康保持・増進、リハビリテーションによりQOLの向上をめざした科学であり技術である」とし、様々な活動を展開してきた。

啓発を進めるため、1998（平成10）年から社団法人に組織替えをおこない、認定試験の実施し、今回の震災を踏まえテキストの改定を検討している。なお看護師の国家試験には、毎年口腔ケア関係が数題出題されていることも口腔ケアに関する知識のすそ野が広がってきている大きな要因ともなっている。

### 震災時における口腔ケア

口腔ケアが十分にできないと、

- 1) 口臭が強くなる・・・他人から疎外される
  - 2) 他人とのコミュニケーションが十分図ることができない。
  - 3) 義歯の破損、むし歯の増加などが増えてくる。
  - 4) 破折・破損した義歯の使用による事故
  - 5) 義歯紛失などにより、救援物資などの食べ物が十分得られない
  - 6) 義歯や歯牙が不潔になる
  - 7) 口腔が不潔になるところから、誤嚥性肺炎を惹起し、いわゆる震災関連死に結びついてくる。
  - 8) 歯科医院、病院など医療機関そのものが、被災し、その機能を停止しているため、治療や指導を受けることができない。
  - 9) 診療や口腔ケアを実施するに際して、カルテもない、診たこともない初めての患者さんが大半である。したがって、日本歯科医師会などで、震災用に、全国共通カルテ、まして、国際的にも使用可能なカルテの作成が望ましい。
  - 10) カルテには、口腔ケアのポイントと指示内容を明確し、複写式にしておき、患者用、歯科医師用、行政？用として、次の診療につながるようしておくといよい。
- なお、歯科衛生士、保健師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士、介護職、ボランティアなどが記載できる欄も作成しておくといよい。

鈴木 俊夫（すずきとしお）

鈴木歯科医院（〒463-0067 名古屋市守山区守山3-3-15 E-mail: tsuzuki@dream.email.ne.jp）

## 震災時の口腔ケア

いくつかの要因が重なって口腔ケアが十分にできなくなる。その要因には、

1. 患者自身の問題として、
  - 1) セルフケアができない人
  - 2) セルフケアができて、様々な状況下で、できない人
2. 地震などが発生した時刻
  - 1) 昼間か夜か

阪神淡路では、早朝だったため、義歯を無くした人が多かったが、

今回、昼間だったのにもかかわらず、義歯を無くした人が多かったのは、津波で、ロンダリングされて、義歯が、口から外れて無くなったことや、高齢者が多く、義歯の使用者が多かったことがあるかもしれない。

- 2) 学校や幼稚園が、授業中や開園中だったか、自宅へ戻る時間がたったか、帰宅が命取りになった事例もある。

### 3. 居所

自宅か避難所かで、大きく口腔ケアに与える影響がことなる

### 4. ライフライン

どの程度、いつから、回復してくるかが、大きな要素となる

口腔ケアに関してみると、洗口用の水が極端に不足している

### 5. 診療と口腔ケアの連携

地元歯科医師会、歯科衛生士会、病院歯科口腔外科との連携

### 6. 救援物資

1) 救援物資が届けられることになるが、お菓子やジュースなどが多いと、

エネルギー源にはなるが口腔は不潔になりやすい。食べ物では、水分のおおい、おかゆ系が意外と便利である。

2) ハブラシ、義歯の洗浄剤、義歯の安定剤（接着剤）と、使用時の水の不足。

災害地へ派遣される場合には、ハブラシをできるだけ、多く持参していただきたい。

3) 歯磨き剤や、排水をどこにするか、義歯を洗浄する場合には、どこにするか、場所を決めておくと遠慮することなくできる。

など、いくつかの視点から、必要性も含めて書いてみた。

他の先生と、重なるところがあるかと思うが、連載「災害と口腔ケア」の第一回なので、ご容赦いただきたい。

また、現場の詳細な内容は、本連載の他稿に譲る。



1 田中前加藤歯科医院 加藤 誠先生のスタッフ写真:左から、加藤氏、震災後雇用した衛生士（ケア専門）家は全壊、仮設住まい、衛生士、衛生士（ご主人の会社は流されました）、受付（家は全壊、仮設住まい）、受付（ご主人の会社は流されました）衛生士（ご主人の会社は流されました）



2 カルテを乾かす (ファミリー歯科医院)

東日本大震災に会われました皆様に、一日も早い復興を祈念いたします。写真を提供していただきました、加藤先生に深謝いたしますとともに、気仙沼歯科医師会の先生がたのご活躍を祈念いたします。



3 気仙沼歯科医師会の被災後初集会